



「防災・減災のためにできること」

熊本地震を経験して

わが国では、地震・火山、風水害などの自然災害が多く発生する。文部科学省は、研究機関と連携し、自然災害による被害軽減を目指した研究開発の推進および防災・減災に関する普及啓発を行っている。その中心的役割を担うのが、戸辺の所属する研究開発局地震・防災研究課だ。どのような思いを抱き業務にあたっているのか。戸辺の姿に迫った。

平成 28 年 4 月熊本地震が発生。この地震で改めて活断層の情報など研究の成果が地域に浸透しておらず、必ずしも十分な防災・減災行動がとられていなかったという課題を感じた。「自治体担当者や一般国民に対してより情報が伝わりやすくなるにはどうしたらいいだろうか。」戸辺たち地震・防災研究課は動いた。それまで数値表記だった地震発生確率を、その発生確率に応じたランク分けの導入により直感的にわかりやすくした。「これをきっかけに自治体の方々に浸透していき、それぞれの防災の取組に役立ててもらえればと思っています」。

防災意識の向上を目指して

さらなる防災意識の普及啓発を目指して、平成 29 年 2 月に「ぎゅっとぼうさい博！ 2017」を開催した。このイベントは防災・減災について 1 日で学ぶことができる博覧会で、文部科学省主催ということもあり、戸辺はその準備に奔走した。

防災・減災にあまり関心の無い方をいかに引きつける魅力的な内容にするか。戸辺は、防災に関する取組や研究を行う団体に展示やセミナーを依頼することにした。「防災・減災に関わる研究成果や技術の出口側・社会実装に取り組む企業等、広く知られている団体に出てもらうことで、より身近に防災について考えてもらえるのではと思いました」。上司と共に自ら足を運び出展交渉をしていく。もちろん、戸辺に営業の経験は無い。断られることもあった。「大変でしたけど、とにかく、あれこれ考える前に行動しようと思いました」。次第に戸辺の想いが結果を変えていった。「このイベントを通じて、みなさんに改めて防災・減災の大切さが伝われば」。戸辺たちはこれからも国民の防災意識向上に向けた取組に邁進していく。



Focus



研究開発局地震・防災研究課

戸辺 弘亮

Tobe Kosuke

平成 26 年入省（物理）

平成 26 年 4 月 文部科学省研究開発局開発企画課

平成 27 年 6 月 現職